

株式会社シナノ

長野県佐久市

生産性向上

需要獲得

担い手確保

ものづくり

サービス

ポイント

「ポール技術で Walking Life を支える」 スポーツ業界から介護福祉業界まで幅広く 展開する総合ポールメーカー

- インクジェット印刷システムの開発によりポール加飾のリードタイム短縮とコスト削減に成功
- 佐久地域の地域産業資源である「スキー・ウォーキングポール」の生産技術でオリジナルグリップを開発中
- 市場ニーズの変化をいち早くキャッチし、総合ポールメーカーとして持続可能なビジネスモデルを実現

企業基本情報

所在地	長野県佐久市岩村田 1104-1
電話/FAX	0267-67-3321/-
URL	http://sinano.co.jp/
代表者	代表取締役社長 柳澤 光宏
設立	1919年
資本金	9,900万円
従業員数	47人



会社概要

同社は1919年の創業以来、スキーポールの製造に特化した事業展開を行い、来年で創業100年を迎える。国内ポールメーカーの中では常にトップの売上を維持し、スキーポール製造の技術を活かし、「登山用ポール・高齢者用杖・ウォーキングポール」を開発し、スポーツ業界から介護福祉業界まで幅広く展開。2015年には東京・有楽町に直営店をオープンし、消費者との対話を重視し、消費者の声を直接集めて商品づくりに活かす態勢を構築している。



会社外観

革新的な製品開発や創造的なサービスの提供に関する取組の内容

▶▶▶ ポール加飾のリードタイム短縮とコスト削減に成功

ポールなどの曲面への加飾はスクリーン印刷が一般的であるが、職人的な熟練度を必要として不良率が高いこと、また受注から生産までが数ヶ月と長いことが大きな課題であった。インクジェット印刷システムは、顧客のデザインなどのデータをそのまま取込むことで全自動での印刷が可能であり、製造時間やリードタイムの短縮が実現し、不良率低減とコストダウンに成功した。短納期に対応し、他品種少量を効率良く生産するシステムを構築することで海外品との差別化を図っている。



インクジェットプリンターで作成したポール

▶▶▶ 「スキー・ウォーキングポール」の生産技術でグリップを開発中

佐久地域の地域産業資源である「スキー・ウォーキングポール」の生産技術を基に、精密部品設計を強みとする県内企業と共同で3Dプリンターを活用した独自の成型技術を開発し、顧客ひとりひとりの手形からつくるオリジナルグリップを活用したポールの開発（全国初の試み）に取り組んでいる。

佐久地域は健康意識が高く病院やリハビリ施設等からは、高齢者の体型や背格好にあったオーダーメイドポールの開発要望等もあり、地域が抱える課題解決に即した製品開発を実施している。



ウォーキングポール

▶▶▶ 総合ポールメーカーとして持続可能なビジネスモデルを実現

同社はスキーポールの製造で創業したが、スキー人口の減少やバブル崩壊を経て、近年の山登りブームや高齢者の増加、健康志向の高まりを受け、スキーポール以外にも新たに登山用ポール、高齢者用杖、ウォーキングポールを開発。高齢化が進行している佐久地域において介護用ポールを事業の柱の一つとして展開している。

時代の変化や市場ニーズの変化をいち早くキャッチし、同社のものづくりの強みを活かして様々な業界に展開することで総合ポールメーカーとしての地位を確立した。



シナノの4つの製品群